

私は私で百点満点

(朝日新聞1991年2月26日)

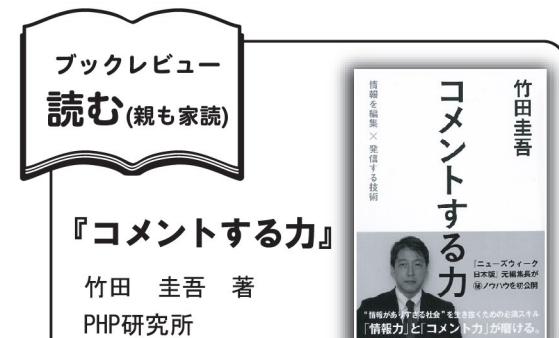
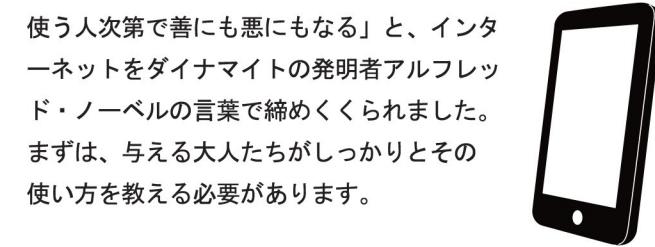


誰にでも欠点や短所がある。人間だもの。欠点のある私で百点満点、そう思うと素直になれる。弱音が消えて歩いて行ける。瞳が輝き笑顔が出てくる。あやまちや失敗をしない人は何もしない人。だから、あやまちや失敗は百点満点。人間だからできたあやまち、人間だからできた失敗。自分を優しくみつめると不安も恐怖も泡のように消えてゆく。今の自分がすべてを決める。自分にバツをつけると臆病になる。他人の言葉や態度ばかりが気になり、力が半分しか出でこない。大切なのは自分にマルをつけること。するとほんとうに自分がしたかったことが、はっきり見えてくる。あるがままの自分を恥じる必要などどこにもありはしない。だから堂々と自分自身に百点満点をおつけなさい。すると目の前がぱっと明るくなる。優しい気持ちになって、自然に微笑みが浮かんでくる。

(2015年11月25日 北筑後ブロックPTA研修会で紹介された作文です。)

インターネットは善か悪か。

昨日11/21(土)。第2回[市・町・村]代表者会議がありました。その中で「インターネットは善か悪か」と題し、独立行政法人 情報処理推進機構セキュリティセンターの石田淳一氏による講演がありました。子どもにインターネットのルールと危険性を教える重要性を訴えると共に、それを教える環境や機会が子どもたちにはないことも指摘され、子どもがインターネットによるトラブルに巻き込まれる事案を解説して頂きました。ワンクリックの巧妙な誘導。なりすましの実態。アカウントを乗っ取られると全世界に広がる…。ノートに冗談を書くのとネットの掲示板に書くのとでは、似たような行為にも関わらず、即、侮辱罪という犯罪になりかねない、GPS機能をONのまま写真を送ると自分の位置情報も送られてしまうなど、ルールを知らずに興味本位だけでインターネットをする危険性を訴えられました。「どんな便利な道具でも使う人次第で善にも悪にもなる」と、インターネットをダイナマイドの発明者アルフレッド・ノーベルの言葉で締めくくられました。まずは、与える大人たちがしっかりとその使い方を教える必要があります。

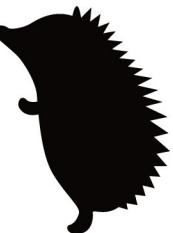


『コメントする力』

竹田 圭吾 著
PHP研究所

先日、すい臓がんのため51才の若さで亡くなられた竹田圭吾氏の著書。別に求められてもいないのにコメントする必要はないけれど、日常に溢れる情報を読み解く力は身に付けておいて損はない。ジャーナリストとして彼が培ってきた情報の捉え方。

「まず疑ってみる」という視点から、情報の一面だけでなく、全体像で捉え、流されず、見極める力を説き、情報を編集して発信する方法が記されています。私のこの情報が正しいか? まずは疑って、読んでみられてはいかがでしょう?



断る勇気

1/19(火) 五年・六年生と保護者を対象に、中央少年サポートセンターから平川智美さんを講師に招き『薬物乱用防止教育学習会』が行われました。ドラッグ、シンナー、タバコ、覚せい剤、それらの薬物は血液に取り込まれ、体の隅々にまで運ばれます。特に脳や神経細胞に悪影響を与える危険性をスクリーンを通して、フレンドリーでありながらも厳しい語り口調で解説していただきました。空洞になった脳やボロボロに溶かされた歯の写真、17才の少年の死、発砲スチロールがシンナーに溶ける実演で薬物の危険性を子ども達に教えると同時に、法律を破る罪も犯しているという事。そして、誘惑をきっぱりと断る重要性を指導して頂きました。身を乗りだし、真剣に耳を傾ける子ども達の姿が印象的でした。どうか、この日の授業を忘れずにいて下さい。



24分の1

1/19(火) めくばーるにて『筑前町学力向上研修会』が行われました。筑前町児童生徒の学力の実態と成果、課題を町民が共有し、町全体で学力向上の気運を高め推進していくとするものです。小学生では、国語は県平均を1ポイントほど上回っていますが、算数はわずかに下回っています。また、家庭学習の全国との比較では、1時間以上している子どもがー9. 1と大きく開いています。グラフからは全体の50パーセントほどの子どもが、つまりクラスの半分の子どもが家では、1日1時間以下しか勉強していないことが読み取れます。また、その学習内容では計画的、予習、復習と3つに分けて比較されていますが全国と比較して、どれもがマイナスです。予習・復習をしている子どもは50パーセントもいません。長い時間勉強をしたら良いというわけではありませんが、勉強をする習慣を身に付けさせることはとても大切なことだと思います。子どもたちの伸びしろはまだまだあります。私たち保護者が家庭学習についての意識を見直して、1日のせめて24分の1、子どもたちを机に導いて行ってほしいと思います。

彼から学ぶ

伊能忠敬。誰もが知る日本地図を完成させた人物。その仕事も偉大だけれど、もっと驚くのは、彼がそれを行ったのは55才から72才までの足かけ17年。ちなみに、この間に彼が歩いた距離はざっと3万5千キロ。歩数にして約4千万歩らしい。彼は歩くのが好きだったのか? 彼は旅好きだったのか? それともお金を稼ぐためか? 勿論、そんな理由からじゃない。約75億の資産を後継者に譲り、51才の時に江戸へ出て天文学を学ぶ。彼が抱いていたのは「夢と希望と、そしてぶん、愛」。その時代、曆学の問題であった「子午線1度の長さを正確に知り、その結果から地球の大きさを求めてみたい」と思つたらしい…。忠敬は、その後ろ姿で静かに語る。「年なんて関係ねーな。人間、やる気次第でいくつになんて、何だって出来るってエもんだ…。おつといけねえいけねえ、今日はおしゃべりがちょいと過ぎたみたいだ…。年寄りのおしゃべりは説教クサくていけねーや」と…。今、大人である僕たちに出来ること。それは、子どもたちに夢や希望を与えること。可能性を感じさせること…。そして、僕ら自身が自ら、夢と希望と愛を胸に更なる一步を踏み出すことも…。

※以上は、あくまでも個人的見解であり、その一歩先につきましては当方一切の責任を負いかねますので、実際に走りだすか否かは自己責任にてお願い致します。

